

教育研究業績書

2024年10月22日

所属：薬学科

資格：准教授

氏名：三浦 健

研究分野	研究内容のキーワード
生物薬学、薬理学、薬学教育学	生化学、末梢神経薬理学、薬学教育学
学位	最終学歴
博士（薬学）	大阪大学大学院薬学研究科博士前期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 双方向型の授業実施	2014年～現在	講義の進行度合いや学生の状況を考慮に入れながら、講義の途中に5分程度の復習時間を設置した。この時間内に教員が机間指導を行い積極的に質問対応するとともに、学生は講義内容の整理を行った。講義内容の理解を深めるとともに、受講態度の改善に結びついている。
2. 双方向型の授業実施	2014年～現在	毎講義の冒頭に前回講義に関する小テストを実施し、正答率の低い問題に関してはその場で追加の説明を行うなど、学生の理解度に合わせた双方向型の講義を実施した。また、その解答用紙には、教員へのコメント欄を作成し、講義内容に関する改善点を抽出し、可能な限り即時対応を行った。
2 作成した教科書、教材		
1. 薬学生のための基礎生物	2019年3月	廣川書店より出版された薬学部初年次学生に特化した生物学の教科書である「薬学生のための基礎生物」のうち、第8章を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本救急医学会ICLS (Immediate Cardiac Life Support) コース修了	2014年9月13日	コース認定番号: 1427170 突然の心停止に対する初期対応としてのチーム蘇生を学んだ。
2. 日本救急医学会BLS (Basic Life Support) コース修了	2014年6月22日	コース認定番号: 1427129 心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置を学んだ。
3. (財)日本アンチ・ドーピング機構 公認スポーツファーマシスト	2012年4月	12-270052
4. (財)日本薬剤師研修センター認定薬剤師	2009年4月	第09-37042
5. 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師	2005年12月～2010年3月	第127号
6. 薬剤師免許	2004年8月	第389073
7. 高等学校教諭専修免許状 (理科)	2004年3月	平15高専第02124号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. PCRセンターの設置・運営	2020年9月～現在	PCRセンター設置準備委員会、運営委員会委員として、PCRセンターの設置準備(センター内設備準備、健康サポートセンターとの協働調整等)を行い、運営を担っている。またPCRセンターの機能強化のために外部機関とのPCR検査・教育・研究の包括協定を締結、関西大学からの検査受け入れのための準備・覚書締結を行った。
2. 第96回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in近畿	2019年3月9日～2019年3月10日	武庫川女子大学で開催された第96回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ(薬学教育者ワークショップ) in 近畿において、タスクフォースとし

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3. 大阪府保険医協会耳鼻咽喉科部会主催の講演会	2018年10月20日	て活動した。 医師を対象とした講演会にて、現在の健康食品に関する制度や問題点、薬物との相互作用について概説した。
4. 第94回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in近畿	2018年10月7日～2018年10月8日	大阪薬科大学で開催された第94回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
5. 第91回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in近畿	2018年2月17日～2018年2月18日	神戸薬科大学で開催された第91回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
6. 第90回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in近畿	2017年10月8日～2017年10月9日	神戸薬科大学で開催された第90回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
7. 第89回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in近畿	2017年9月17日～2017年9月18日	近畿大学で開催された第89回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
8. 第87回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in近畿	2017年7月16日～2017年7月17日	兵庫医療大学で開催された第87回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
9. 第83回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿	2016年9月3日～2016年9月4日	武庫川女子大学で開催された第83回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
10. 第82回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿	2016年8月6日～2016年8月7日	立命館大学で開催された第82回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
11. 第80回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿	2015年9月20日～2015年9月21日	神戸薬科大学で開催された第80回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。
12. 第76回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿	2015年2月21日～2015年2月22日	大阪大谷大学で開催された第76回 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in 近畿において、タスクフォースとして活動した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. スタンダード薬学シリーズII「第9巻 薬学演習II 基礎科学」	共	2021年10月	東京化学同人	薬学教育モデルコアカリキュラムの学習内容を具体的に記載した薬学部の標準教科書であるスタンダード薬学シリーズの演習書「第9巻 薬学演習II 基礎科学（日本薬学会編）」のうち、末梢神経系、中枢神経系、筋、内分泌等を担当した。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Influence of concurrent and staggered dosing of semi-solid nutrients on the pharmacokinetics of orally administered	共	2022年4月	Pharmazie 77 (2022) 118-120.	高分岐デキストリンを含有する半固形状流動食であるPGソフトエースMPとカルバマゼピンについて、ラットモデルを用いて、その相互作用について検討した。カルバマゼピンのC _{max} 、k _e 、T _{max} 、AUCをそれぞれ算出し、該当の商品がカルバマゼピンの消化管からの吸収に負の影響を与えることを明らかにした。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 Katsuhito Nagai*, Shuhei Fukuno, Rika Moriwaki, Haruka Kuroda, Sachiko Omotani, Takeshi Miura, Yasutoshi Hatsuda,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
carbamazepine in rats 2. Loxoprofen enhances intestinal barrier function via generation of its active metabolite by carbonyl reductase 1 in differentiated Caco-2 cells (査読有)	共	2021年9月	Chemico-Biological Interactions 384 (2021) 109634	Michiaki Myotoku, Hiroki Konishi カルボニル還元酵素 (CBR1)は、様々な薬物を還元代謝する。その中の一つ、ロキソプロフェンに関して、Caco-2細胞を用いた細胞モデルにおいて上皮バリア機能を強化すること、その強化にはCBR1による代謝およびロキソプロフェンの代謝物 (ロキソプロフェンアルコール) が重要であることを示した。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 Satoshi Endo*, Tsubasa Nishiyama, Tomoe Matsuoka, Takeshi Miura, Toru Nishinaka, Toshiyuki Matsunaga, Akira Ikari
3. Upregulation of Carbonyl Reductase 1 by Nrf2 as a Potential Therapeutic Intervention for Ischemia/ Reperfusion Injury During Liver Transplantation (査読付)	共	2019年9月	Molecules and Cells 42 (2019) 672-685.	マウス肝虚血再灌流モデルにおいて転写因子Nrf2の活性上昇とその下流遺伝子CBR1の発現上昇、それに伴う抗酸化活性の上昇が虚血再灌流障害に対して保護的に作用することを示した。また、ヒト肝移植時においても同様の機序が働いていることを示唆した。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 Eunyoung Tak*, Jae Hyun Kwon, Jooyoung Lee, Jiye Kim, Dong-Hwan Jung, Young-In Yoon, Varvara A. Kirchner, Young Hwa Jo, Takeshi Miura, Gi-Won Song, Shin Hwang, Sung-Gyu Lee
4. Cooperative regulation of mouse aldose reductase (AKR1B3) gene transcription by Nrf2, TonEBP, and c-jun (査読付)	共	2019年4月	Chemico-Biological Interactions 302 (2019) 36-45.	マウスアルドース還元酵素 (AKR1B3) 遺伝子の転写について、Nrf2やTonEBP, c-junが協調して制御していることを見出した。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 Toru Nishinaka*, Kahori Shimizu, Takeshi Miura, Chihiro Yabe-Nishimura, Tomoyuki Terada
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
3. 総説				
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年11月	Elsevier社 Chemico-Biological Interactions誌 Outstanding Reviewer表彰
2. 2017年7月	Elsevier社 Nutrition誌 Outstanding Reviewer表彰
3. 2016年8月27日	日本薬学教育学会 会員
4. 2015年10月17日	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (大阪大谷大学) ポスター審査委員
5. 2014年11月	Elsevier社 Chemico-Biological Interactions誌 Outstanding Reviewer表彰
6. 2012年10月20日	第62回 日本薬学会近畿支部総会・大会 (武庫川女子大学) ポスター審査委員
7. 2011年10月～現在	日本プライマリ・ケア連合学会 会員
8. 2011年4月～現在	日本薬剤師会 会員
9. 2009年～現在	学術論文のad-hoc reviewer (薬学教育、Chemico-Biological Interactions、Internal Medicine、BBA-molecular cell research、The Journal of Biochemistry、Current Drug Metabolism、Drug Metabolism Letters、Nutrition、Expert Opinion on Drug Metabolism and Toxicology、

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
10. 2006年8月～現在	International Journal of Medical Sciences, Phytomedicine, Biopharmaceutics and Drug Disposition, FEBS Journal, Annals of Nutrition and Metabolism, Clinical Interventions in Ageing, Toxins, Hematology Reviews, Current Molecular Medicine) 日本薬学会 会員